

沙羅の樹文庫だより



境港から米子まで「妖怪列車」に乗った
ら、天井に、《ネズミ男》が浮いていま
した。今頃は、ゲゲゲの鬼太郎の仲間た
うちもハロウィンの相談をしてるでしょ
うね。妖怪も魔女の仲間ですもの……

文庫あれこれ◆伊豆高原は紅葉にはちょっと早いでしょうが、◆文庫に来ると新聞はなし、テレビは見ないで、大きなニュースを知らないまま、というところがよくあります。が、さきほどお風呂に入ろうと母屋のテレビをつけたら、鳥取震度6強ですと余震が続いているとか。別名地震列島と言えどもちよっとニッポン地震多すぎませんか?!◆地震対策をしなくてはとさすがの私も不安になっています。◆10月は行事の多い季節。今年は、大学を卒業してから50年ということで、母校など、もう行くこともあるまいと久しぶりに記念式典に出てきました。珍しい人にはあまり会えませんが、高校時代クラブ活動(演劇部)に通った男子校校舎(当時鉄の牢獄という観、今も変わりなし)や、発声練習をした瓊谷(大学の新施設が建って見る影もなし)、運動場など懐かしく歩き回りました。◆帰ると小学校のクラス会です。こちらは、卒後何と60年です。◆耳の補聴器をなくしました。文庫に置き忘れたと思い、先週探しにきたのですが見つからず。運転免許更新で眼鏡、補聴器の使用者は持参と書いてあったので、急ぎ片耳だけ(高いので)作り直ししたら、今日、YNさんが見つけてくれました。置いたと劇うところ。入れ物のイメージをすっかり勘違いしていたのです。これが年をとったということです。◆でも体重が少し減って体の動きが幾分楽になりました。気持ち前向きになります。◆大室自治会の名簿がなくなって、隣りは何をやる人ぞ状態はますます、ですね。◆明日は自治会の文化祭。スタッフNさんMさん、コーラス頑張ってください!! 秋晴れでありますよう。◆来館お待ちしております。大人の新刊多々ありますよ。(西村)

◆◆今後の開館スケジュール◆◆

- ◆11月は通常19(土)、20(日)の両日
- ◆12月も変則23(金・祝)、24(土)

★★★クリスマスおたのしみ会は23日(金曜日)の午前(10:30~11:45)です。300円程度のプレゼントを持ってお出かけください。★★★

※23日金曜(祝) 貸出は12:00~15:00まで。
※24日土曜は12:00~17:00まで。
お間違えないように♥

- ◆2017年1月は通常14(土)、15(日)両日
- ◆2月は通常18(土)、19(日)の両日

文庫の時間は土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、**子どものための小さなおはなし会**があります。
午前10:30~11:00

★おはなし沙羅の勉強会
毎月開館土曜日 11:00~13:00
読みかかせの練習・本選びの勉強にもどうぞ

駐車について

駐車可能場所:
文庫駐車場3台・
サクスフィールドさん(駐車場が空いているとき)
グラナダさんの屋休み時間(14:00~17:00)
文庫下2軒先左折行き止り道路
上記がいっぱいの場合、スタッフに声をかけてください。(沙羅の樹文庫)

沙羅の樹文庫 0557-51-3737
<http://www.saranokibunko.com>



夕陽にそよぐすすき原

夕焼 作:八木重吉
ゆう焼をあび
手をふり
手をふり
胸には ちさい夢をとほし
手をにぎりあわせてふりながら
このゆうやけを あびていたいよ



2016年9月に読んだ本についての感想 2016.10.20 by 森林浴

『日露戦争史 1・2・3 (平凡社ライブラリー)』
半藤一利著 平凡社刊 2016年4月第1版

とにかく文庫本で3冊、みんな400頁を越す厚さで字がギッシリ詰まっているので、気楽に読めるように分かりやすい文章で書かれてはいるが、読み通すのはちょっと時間がかかる。近時老眼が進み、眼鏡屋で「よくこんな状態で運転免許が貰えましたね」とあきれられたが、そんな老人にはちょっと大変な仕事でした。しかし第1巻の後書きで、著者の半藤一利氏は2012年5月、満82歳と記し、第3巻の後書きでは2013年12月となっている。草臥れ切った83歳の老人がよくやった!と感嘆。(原稿は最初平凡社の雑誌に連載され、あとでこの本にまとめられて単行本になったらいい。)

まあこれは半藤一利の演ずる「講談—日露戦争—」——じゃじゃじゃーん」というところかな。とても分かりやすくよく整理されています。よくこんなに資料を集めたものと感心も。

第1巻—は戦争が始まる前の状況—日本がロシアと戦争を始める経緯が詳しく述べられている。英国との同盟の結成、国民の反ロシア感情、そしてついに対ロシア開戦となりますが、そこまでのロシアの傲慢、桂内閣・日本軍の動向がよくわかります。

第2巻は山場となる遠東半島旅順港の203高地を争う恐ろしい戦いが乃木將軍を中心に詳しく述べられています。

そして第3巻は有名な東郷元帥指揮のもとにロシア海軍を完膚なく打ち倒す日本海開戦と奉天

どの地上戦でも大勝した日本軍の闘い、そして米
国ルーズベルト大統領の仲介による日露両国の
戦争終結交渉の流れが述べられています。
日清戦争・日露戦争は日本が勝利し、世界に日本
国の強さを知らしめたのですが、その後のシナ事
変そして太平洋戦争で日本は大敗北、一挙に苦境
に立つこととなりますが、著者はなぜ日本が後半
で大失敗したのかについても深い洞察力でもって
述べています。
とても良い本、若い人に読んでもらいたいもので
す。

まどみちおさんの うれしい詩をひとつ

トンチンカン夫婦

満91歳のボケじじいの私と
満84歳のボケばああのお女とはこの頃
毎日競争でトンチンカンをやり合っている
私が片足に2枚かさおてはいたまま
もう片足の靴下が見つからないと騒ぐと
彼女はコメも入れてない炊飯器に
スイッチを入れてごはんですよと私をよぶ
おかげでさくぼたる老夫婦の暮らしに
笑いはたえずこれぞ天の恵みと
因にのって二人ははしゃぎ
明日はまだこんな珍しいトンチンカンを
お恵みいただけるかと胸くらませる
厚かましくも天まで仰ぎ見て!
(『でんでんむしのハガキ』講談社より)

伊豆高原だより 外伝



松江城 正面と石垣



隠岐・知夫村・赤壁



隠岐・島前・國賀海岸



ろうそく岩



妖怪列車と足立美術館

思いましたが、やはり個々、全部友人0さんが撮影してくれました。(さ・ら)

絵本

『ピクルスとふたごのいもうと』(小風さち文 夏目ちさ絵 福音館書店 2016) ID12167
 『ぐるぐるぐる』(内田麟太郎作 長野ヒデ子絵 金の星社 2016) ID12166
 ID12166
 『ねこ・こども』(佐々木マキさく 福音館書店) ID12179
 『ひょっこり ひとつ』(佐々木マキさく 福音館書店) ID12178
 『おばけサーカス』(佐野洋子作絵 講談社) ID12172
 『へっこきあねさがよめにきて』(大川悦生文 太田大八絵 ポプラ社) ID121780
 『子育てううれい』(桜井信夫ぶん 若山憲えほるぶ出版) ID12181
 『フィボナッチー自然の中にかくれた数を見つけだした人』(ジョセフ・ダグニース文 ジョン・オブライエン絵 さ・え・ら書房) ID12173 (孫Cから寄贈)

よみもの

『空飛ぶライオン (光村ライブラリー10)』(佐野洋子ほか著 光村図書出版) ID12176
 『テイゴの花』(桜井信夫文 国土社) ID12182
 『翼もつ者』(みおちづる著 新日本出版社) ID12171
 『少年・空へ飛ぶ』(おぎざんた著 偕成社) ID12170

フィクション以外

『九十歳。何がめでたい』(佐藤愛子著 小学館 2016) ID16848
 『過去をもつ人』(荒川洋治著 みすず書房 2016) ID 16845
 『神と語って夢ならず』(松本侑子著 光文社) ID 16836
 『しまぐれ星からの伝言』(星新一著 徳間書店 2016) ID 16841
 『翻訳出版編集後記』(常盤新平著 幻戯書房 2016) ID 16842
 『週末介護』(岸本葉子著 晶文社 2016) ID 16840
 『マタギ奇談』(工藤隆雄著 山と溪谷社 2016) ID16873
 『山怪一人人が語る不思議な話』(田中康弘著 山と溪谷社 2015) ID16853

『忘却された支配—日本のなかの植民地朝鮮』(伊藤智水著 岩波書店 2016) ID16854
 『ヒトラーの娘たち—ホロコーストに加担したドイツ女性』(ウェンディ・ロー著 石川ミカ訳 武井彩佳監訳 明石書店 2016) ID16855

『脳外科医マーシュの告白』(ハンリー・マーシュ著 NHK出版 2016) ID16852
 『介護するからだ』(細馬宏通著 医学書院 2016) ID 16838
 『平常心のコツ』(植西聡著 自由国民社 2016) ID16877
 『わたしの台湾・東海岸「もう一つの台湾」をめぐる旅』(一青窈著 新潮社 2016) ID16872

『あと少し、もう少し』(瀬尾まいこ著 新潮社 2012) ID12177
 『ミスターオレンジ』(トゥルース・マティ作 野坂悦子訳 朝北社 2016) ID12164
 『神々と戦士たち1、2』(ミッシェル・ペイヴァー著 あすなろ書房) ID 12168~9

ノンフィクション

『のにつき』(近藤薫美子作絵 アリス館) ID12175
 『くぬぎの木いっぽん えっ』(近藤薫美子作絵 BL出版) ID12174 (以上2冊Fから寄贈)



みんな、ハロウィンって何だか知ってる？
 カボチャくりぬいて、仮装して、お菓子を
 もらうだけ、じゃないのよ〜。

『レオナルド・ダ・ヴィンチの秘密』(コスタンテ ィーノ・ドラッツィオー著 上野真弓訳 河出書房新社) ID16839

『野村純一 怪異伝承を読み解く』(大島廣志編 アーツアンドクラフツ 2016) ID16876
 『奥会津の伝承 五十嵐七重の語り (ふくしまの民話集 第1巻)』(NPO 語りと方言の会編・刊)

寄贈

『少年たちの戦争』(徳永徹著 岩波書店 2015) ID16849※著者の夫人Hさんから。
 『語りたいこんな民話』(小野和子再話 みやぎ民話の会 2015) ID16875※民話採話者Sさんから。

新書

『ピアニストは語る』(ヴァレリー・アフアナシェフ著 講談社現代新書 2016) ID 16843
 『ホスピスからの贈り物—イタリア発、アートとケアの物語』(横川善正著 ちくま新書 2016) ID16861
 『伊勢と出雲 韓神と鉄』(岡谷公二著 平凡社新書 2016) ID16860

文庫

『隠された十字架—法隆寺論』(梅原猛著 新潮文庫) ID16863
 『丸山眞男回顧談 (上) (下)』(松沢弘陽ほか編 岩波現代文庫 2016) ID16864~5
 『高い窓』(レイモンド・チャンドラー著 早川書房 2016) ID16866

フィクション

『何様』(朝井リョウ著 新潮社 2016) ID 16837
 『晩秋の陰画』(山本一力著 祥伝社 2016) ID16846
 『月兎耳の家』(稲葉真弓著 河出書房新社 2016) ID16851※request
 『狩りの時代』(津島佑子著 文藝春秋 2016) ID16857
 『蜜蜂と遠雷』(恩田陸著 幻冬舎 2016) ID16856
 『デトロイト美術館の奇跡』(原田マハ著 新潮社 2016) ID16869
 『地上の塵』(村木嵐著 文藝春秋 2016) ID16867
 『光炎の人 上・下』(木内昇著 KADOKAWA 2016) ID16870、71
 『料理通異聞』(松本今朝子著 幻冬舎 2016) ID16847
 『老人のための残酷物語』(倉橋由美子著 講談社) ID16850
 『あたらしい名前』(ノヴァイオレット・ブラワヨ著 谷崎由美訳 早川書房 2016) ID16818
 『アウシュヴィッツの図書係』(アントニオ・G・イトルバ著 集英社 2016) ID16868

『熊と踊れ 上・下』(アンデシュ・ルースランド著 早川書房 2016) ID16858~59
 『コンテキ号探訪記』(トール・ハイエルダール著 水口志計夫訳 河出書房) ID16862

『ほおずき地獄—猿若町捕物帳』(近藤史恵著 光文社文庫) ID 16883
 『情愛の奸 (御広敷用人大奥記録 10)』(上田秀人著 光文社文庫) ID 16884
 『死の舞 (新・古着屋総兵衛 12)』(佐伯泰英著 新潮文庫) ID 16881
 『柳に風 (新酔いどれ小藤次 5)』(佐伯泰英著 文春文庫) ID 16882
 以上4冊 **小野さんより寄贈** 尚、M 田さんほかからたくさんいただきました。入庫しましたが、ここに書ききれないので、記入は省かせていただきました。(さ・ら)

戦争を考える本

ホロコースト関係の本の出版はあとを断ちません(『アウシュヴィッツの図書係』、『ヒトラーの娘たち』)が、今回文庫10周年誌をお送りしたお返しにと、著者の奥さまからいただいた『少年たちの戦争』をご紹介します。まだ読み終わってないのですが、第二次世界大戦当時長崎で中学に入ったばかりの少年たちが軍国少年としていかに教育され終戦後いかに生きたかを、当時の日記などを辿ってありのままを、文学者と違った目(著者は医学者)で冷静に記録。心を突かれました。もうひとつ、沖縄戦の悲惨さは誰もが少なからず知っていますが、敵軍によってでなく、日本の軍隊の横暴な指示によって、生まれ育った島から強制疎開させられ、マリアアに罹患、多くの大人子どもが死んでいった波照間島を子どもにわかる叙事詩に書き上げた桜井信夫作『ハテルマシキナ』は戦争の理不尽さを胸の底にまで訴えます。2冊一読おすすすめです。 さ・ら